

2012年9月28日

報道関係各位

転職に関する調査

これまで経験した雇用形態「非正規のみ」 20代男性 18.4%、20代女性 37.6%
これまで経験した勤務先数 平均 4.4社、非正規雇用スタートでは平均 4.9社

転職先探して50代が利用した経験があるものは？
転職する際に役立ったもの トップは「資格」、「見た目」も3人に1人

転職理由「仕事内容」が「給料」や「労働時間」を上回る

前職と比較した現職の評価「給料が改善」4割
仕事内容が不満で転職した人の6割半ばが希望する仕事に
職場の人間関係が不満で転職した人の5割半ばが職場の人間関係に満足

転職についての意識 “転職での成功は容易” 7人に1人
“転職でスキルアップができる” 3人に1人
“転職は繰り返すと条件悪化” 半数が認識、転職したことを後悔した経験あり 4人に1人

“一度非正規雇用で働くと、正規雇用にはなりにくい” 4割が同意
非正規雇用から正規雇用になるために役立つと思うもの
「同一組織内で正規雇用化が可能になる社内制度」が6割強でトップ

連合（日本労働組合総連合会）（<http://www.jtuc-rengo.or.jp>）（所在地：東京都千代田区、会長：古賀 伸明）では、転職に関する調査を実施しました。

本調査は、モバイルリサーチ（携帯電話によるインターネットリサーチ）により、2012年8月10日～8月21日の12日間において実施し、1,000名＜調査対象者：20歳～59歳の転職経験のある有職者（パート・アルバイト含む）、または転職活動者＞の有効サンプルを集計しました。（調査協力機関：ネットエイジア株式会社）

調査結果 - 概要 -

◆今回の調査結果から、性別や世代、学校卒業後最初の雇用形態、転職のパターンによって、これまでの勤務経験や転職の実態が異なっている様子が窺えました。

これまでの勤務経験についてみると、学校卒業後に経験したことがある雇用形態では、性別や世代による特徴が見られ、男性では「正規のみ」との回答が半数以上でしたが、女性では「正規+非正規」が半数以上で「正規のみ」の比率は、男性の半分以下の2割強でした。また、若い世代ほど「非正規のみ」と回答している比率が高くなりました。

【グラフ1】

これまでに経験した勤務先の数（平均）をみると、学校卒業後に最初に就いた仕事が正規雇用か非正規雇用か

によって、経験勤務先数(平均)に差があり、最初の雇用形態が非正規雇用の方が多くなりました。また、性別によっても差があり、男性よりも女性の方が多くなりました。【グラフ 2-1】

これは、非正規雇用での経験勤務先数が影響しており、最初の雇用形態が非正規雇用の層や女性の場合、正規雇用での経験勤務先数(平均)は少ないものの、非正規雇用での経験勤務先数(平均)は多くなっていることにより、トータルでの平均数が押し上げられていました。【グラフ 2-2】【グラフ 2-3】

次に、これまでの転職探すで利用したもので、若い世代ほど「転職サイト」の利用率が高く、それとは逆に世代が上がるにつれ「友人・知人からの紹介」の利用率が高くなっており、世代による特徴がみられました。【グラフ 3-2】

また、直近の転職理由では、正規雇用→正規雇用へ転職した層は「仕事内容」が上位 2 位項目、非正規雇用→正規雇用へ転職した層は「長期雇用の保障」が上位 2 位項目となり、非正規へ転職した層では「労働時間」、「職場の人間関係・風土」が上位 2 位項目で、転職のパターンによる違いがみられました。【グラフ 5-3】【グラフ 5-4】【グラフ 5-5】【グラフ 5-6】

◆転職に関する意識を聞いた質問の結果からは、転職の難しさも窺えました。

現職への評価と現在の幸福度との関係では、現職に満足している層の方が満足していない層よりも幸せだと感じられている結果となりました。転職によって、満足できる仕事内容や職場環境、労働条件になれば、その転職は成功といえるかもしれません。【グラフ 7-1】【グラフ 7-2】

しかし、転職に成功することは簡単ではなく、転職経験があるか、現在転職活動中である本調査の回答者の半数が転職に成功することは難しいと回答し、さらに、4 人に 1 人が転職したことを後悔した経験があるとしました。【グラフ 8】

◆これまでの勤務経験や転職に関する意識からは、非正規雇用について考える必要があると感じられる結果も得ることができました。

男性より女性、最初の雇用形態が正規雇用より非正規雇用、年代では若い層ほど、非正規雇用での経験勤務先数が多くなる傾向がみられました。転職に関する意識を聞いた質問では、全体の 4 割が、一度非正規で働くことと正規雇用にはなりにくいこと回答し、非正規雇用から正規雇用への転職の難しさを感じている様子が窺えました。

また、多くの非正規雇用経験者が「同一組織内で正規雇用化が可能になる社内制度」を求めていることがわかりました。【グラフ 2-3】【グラフ 8】【グラフ 9】

連合は今後も、すべての働く人たちのために、ディーセントワーク(人間らしい働きがいのある仕事)の実現を通じて、希望と安心の社会づくりに取り組んでいきます。

※調査結果の詳細は、次のページ以降をご覧ください。

調査結果 - 詳細 -

<1> 勤務経験

◆これまで経験した雇用形態「非正規のみ」 20代男性 18.4%、20代女性 37.6%

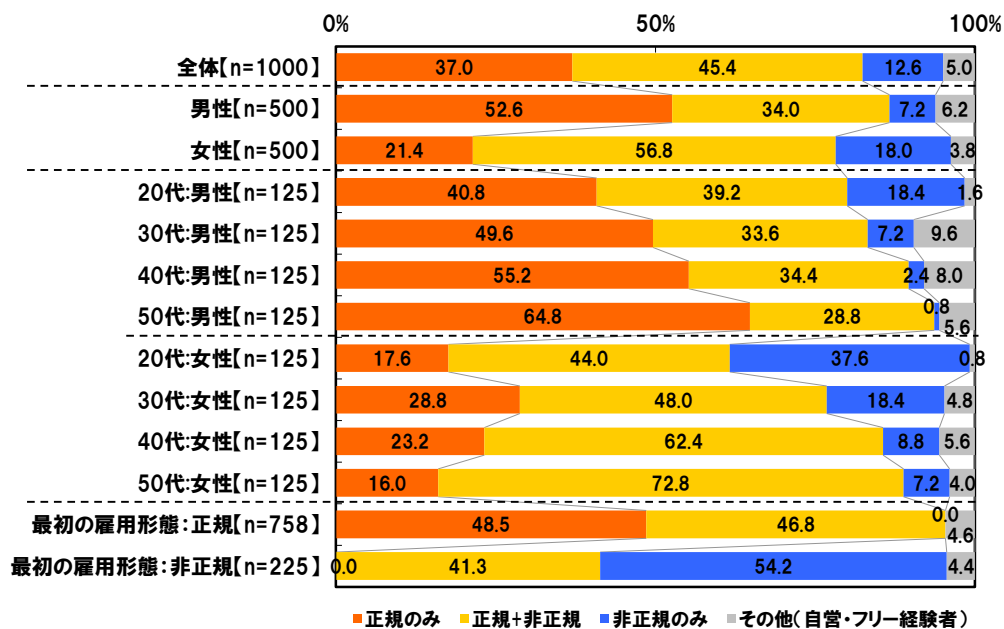
◆これまで経験した勤務先数 平均 4.4 社、非正規雇用スタートでは平均 4.9 社

20歳～59歳の転職経験のある有職者(パート・アルバイト含む)、または転職活動者 1,000名(全回答者 1,000名)に、学校卒業後に経験したことがある雇用形態を聞いたところ、全体では「正規のみ」が 37.0%、「正規+非正規」が 45.4%、「非正規のみ」が 12.6%となりました。

男女別にみると、男性では「正規のみ」が 52.6%と半数以上で女性(21.4%)の 2 倍以上の割合となっており、女性では「正規+非正規」が 56.8%と半数以上となりました。また、性年代別にみると、男女とも若い世代ほど「非正規のみ」の割合が高く、20代男性では 18.4%(30代 7.2%、40代 2.4%、50代 0.8%)、20代女性では 37.6%(30代 18.4%、40代 8.8%、50代 7.2%)という結果となりました。

【グラフ 1】

◆学校卒業後に経験したことがある雇用形態

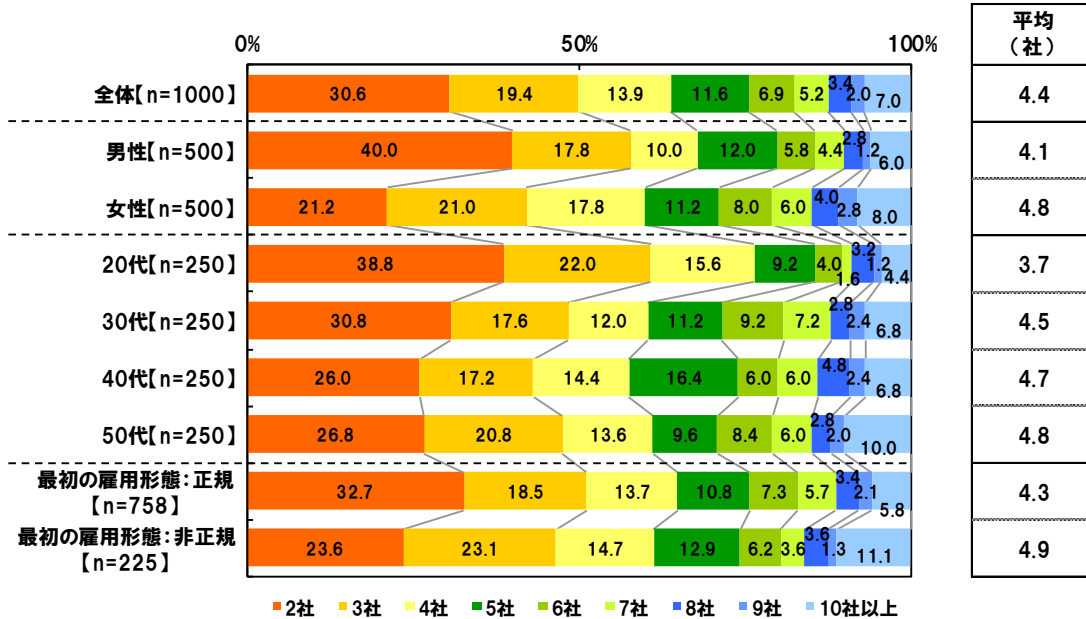


次に、これまでに経験したことがある勤務先の数(パートやアルバイト、自営業・フリーランスとして勤務した場合も含み、同一組織内の転勤・異動・出向の数は含めない)を聞いたところ、平均は4.4社となりました。

男女別に平均をみると、男性4.1社、女性4.8社と女性の方が多くなり、学校卒業後最初に勤務した雇用形態別では、正規雇用で勤務経験をスタートさせた758名の平均は4.3社、非正規雇用で勤務経験をスタートさせた225名の平均は4.9社と非正規雇用で勤務経験をスタートさせた回答者の方が勤務先の平均数は多くなりました。

【グラフ 2-1】

◆これまでに経験したことがある勤務先の数
(同一組織内の転勤・異動・出向の数は含めない)

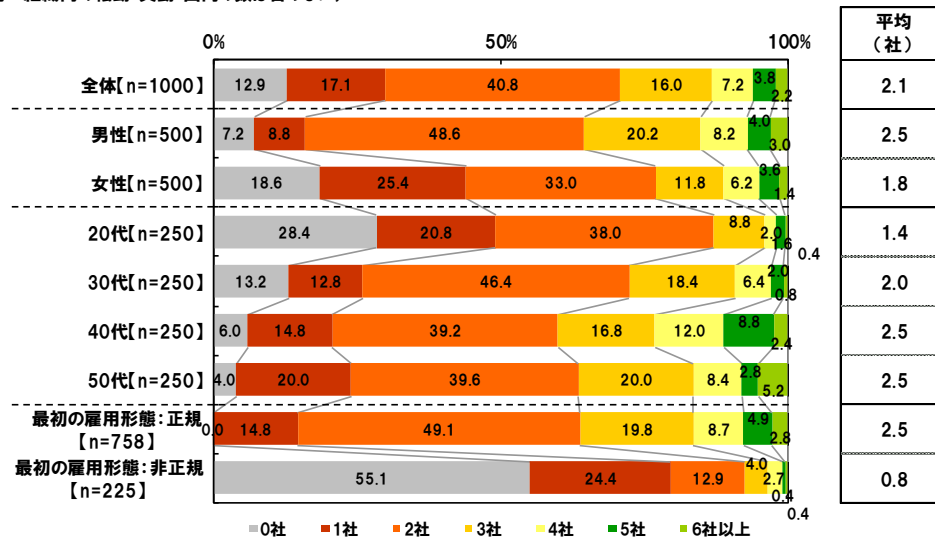


これまでに経験したことがある勤務先の数を正規雇用で経験した勤務先の数と非正規雇用で経験した勤務先の数とに分けてみると、これまでに【正規雇用】で経験したことがある勤務先の数では、全体の平均は2.1社となりました。男女別にみると、男性2.5社、女性1.8社と、正規雇用での経験勤務先数(平均)では男性の方が多くなりました。

次に、これまでに【非正規雇用】で経験したことがある勤務先の数をみると、全体の平均は2.3社となり、男女別では、男性1.6社、女性3.0社、年代別では、20代2.3社、30代2.4社、40代2.2社、50代2.2社となりました。また、学校卒業後最初に勤務した雇用形態別では、正規雇用で勤務経験をスタートさせた758名の平均は1.7社、非正規雇用で勤務経験をスタートさせた225名の平均は4.1社と非正規雇用で勤務経験をスタートさせた回答者の方が非正規で経験勤務先数(平均)は多くなりました。

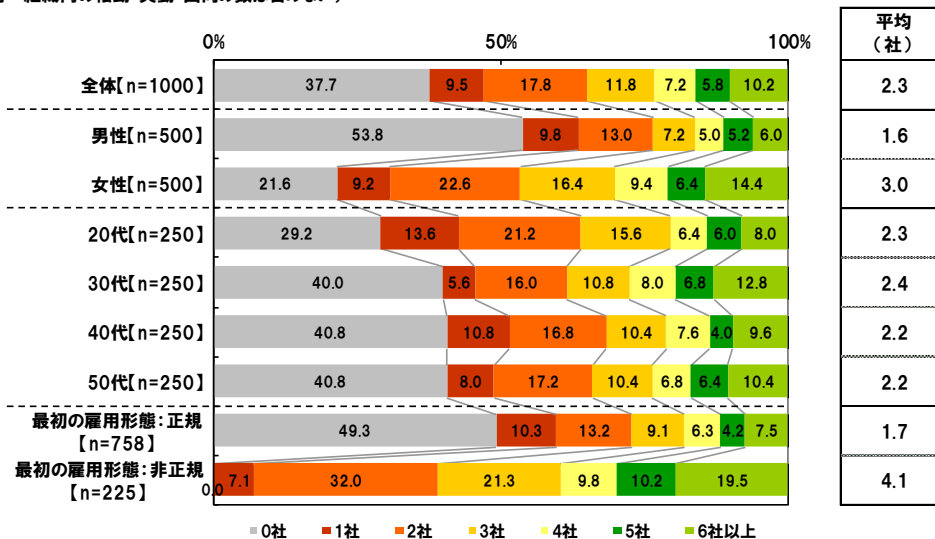
【グラフ 2-2】

◆これまでに【正規雇用】で経験したことがある勤務先の数
(同一組織内の転勤・異動・出向の数は含めない)



【グラフ 2-3】

◆これまでに【非正規雇用】で経験したことがある勤務先の数
(同一組織内の転勤・異動・出向の数は含めない)



<2> 転職活動

◆転職先探しで50代が利用した経験があるものは？

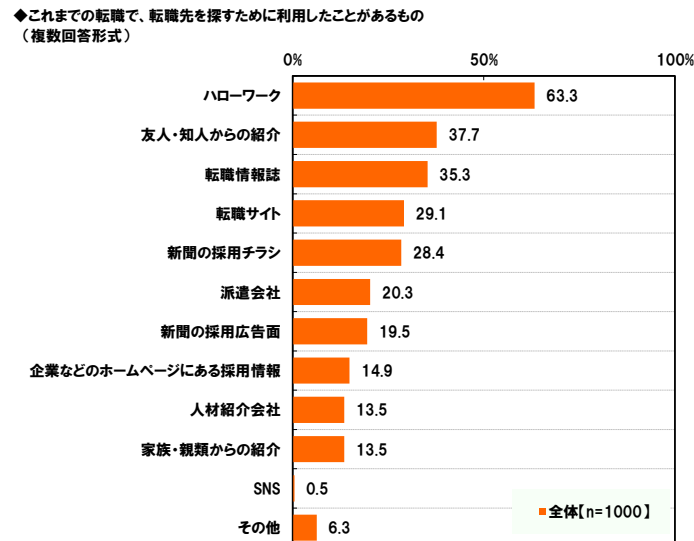
◆転職する際に役立ったもの トップは「資格」、「見た目」も3人に1人

それでは、転職先探しでどのようなものが情報源として利用されているのでしょうか。

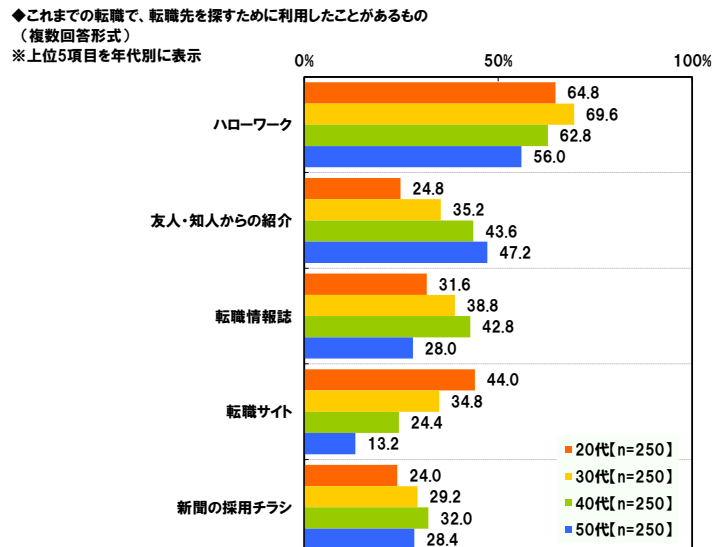
全回答者(1,000名)に、これまでの転職で、転職先を探すために利用したことがあるものを聞いたところ、最多は「ハローワーク」63.3%で、次いで「友人・知人からの紹介」37.7%、「転職情報誌」35.3%、「転職サイト」29.1%、「新聞の採用チラシ」28.4%が続きました。

年代別にみると、「友人・知人からの紹介」(20代 24.8%、30代 35.2%、40代 43.6%、50代 47.2%)は世代が上がるにつれて利用率は高くなり、「転職サイト」(20代 44.0%、30代 34.8%、40代 24.4%、50代 13.2%)では若い世代ほど利用率は高く、転職先探しで50代が利用したことがあるものは、「友人・知人からの紹介」が半数近く、「転職サイト」は1割強という結果となりました。

【グラフ 3-1】



【グラフ 3-2】

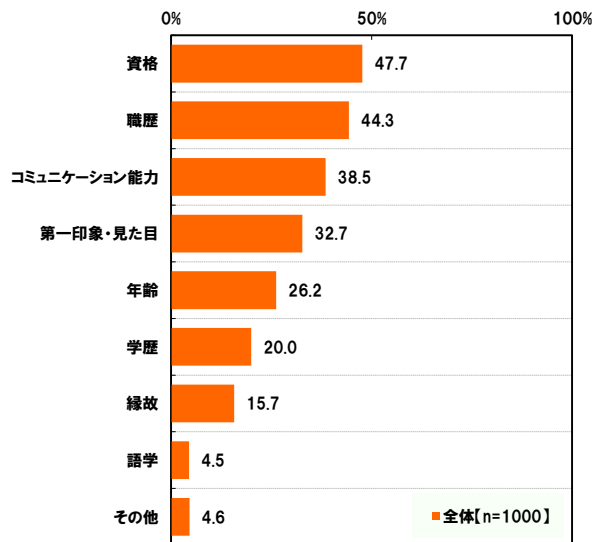


また、全回答者(1,000名)に、これまでの転職で、転職する際に役に立ったと思うものを聞いたところ、「資格」47.7%が最多で、「職歴」44.3%、「コミュニケーション能力」38.5%が続き、「第一印象・見た目」も32.7%と3人に1人の割合となりました。

年代別にみると、20代では「第一印象・見た目」が42.8%で他の世代(30代31.2%、40代27.6%、50代29.2%)に比べ高く、「年齢」でも41.6%と他の世代(30代23.6%、40代20.8%、50代18.8%)に比べ高くなりました。また、40代では「職歴」が55.6%で他の世代(20代34.4%、30代44.0%、50代43.2%)よりも役に立ったと思う割合が高い結果となりました。

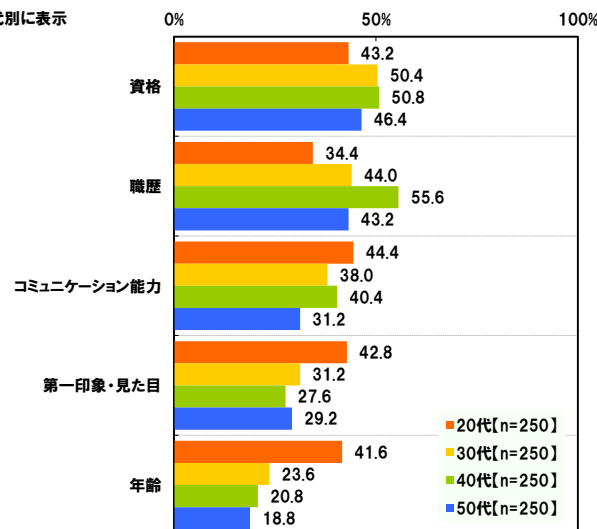
【グラフ 4-1】

◆転職する際に役に立ったと思うもの
(複数回答形式)



【グラフ 4-2】

◆転職する際に役に立ったと思うもの
(複数回答形式)
※上位5項目を年代別に表示



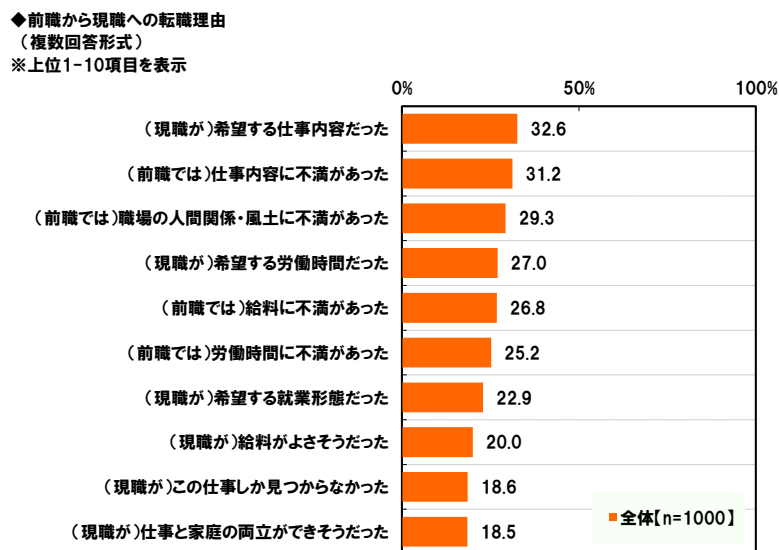
<3> 転職理由

◆ 転職理由「仕事内容」が「給料」や「労働時間」を上回る

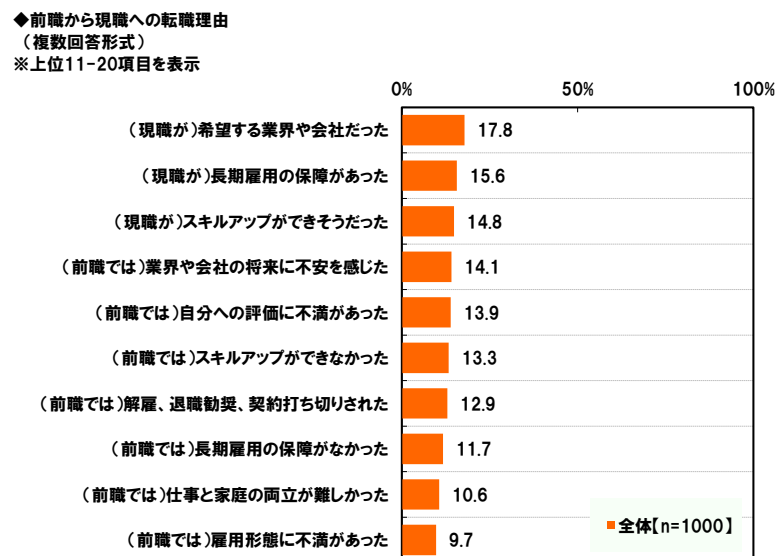
正規雇用から正規雇用では「仕事内容」が上位、非正規雇用から正規雇用では「長期雇用の保障」が上位
非正規への転職では「労働時間」「職場の人間関係」が上位に

全回答者(1,000名)に、直近の転職について、転職理由を聞いたところ、最多は「(現職が)希望する仕事内容だった」32.6%、次いで「(前職では)仕事内容に不満があった」31.2%、「(前職では)職場の人間関係・風土に不満があった」29.3%、「(現職が)希望する労働時間だった」27.0%、「(前職では)給料に不満があった」26.8%、「(前職では)労働時間に不満があった」25.2%が続き、仕事内容を転職理由とした割合が最も高く、給料や労働時間を理由とする割合を上回りました。

【グラフ 5-1】



【グラフ 5-2】



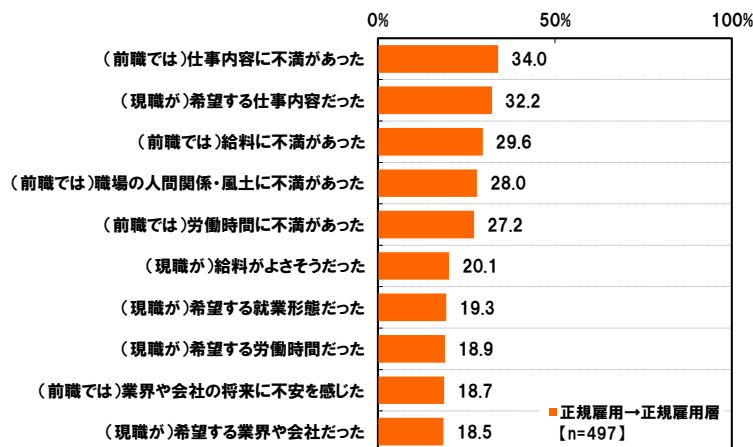
これを転職のパターン別(前職と現職の雇用形態の組み合わせによって、次の4つのグループに分類。「正規雇用→正規雇用層」、「非正規雇用→正規雇用層」、「正規雇用→非正規雇用層」、「非正規雇用→非正規雇用層」)にみると、各層の結果では、それぞれの特徴がみられました。

まず、【正規雇用→正規雇用層】の転職理由についてみると、最多は「(前職では)仕事内容に不満があった」34.0%、次いで「(現職が)希望する仕事内容だった」32.2%と、“仕事内容”が上位2位項目となり、以下、「(前職では)給料に不満があった」29.6%、「(前職では)職場の人間関係・風土に不満があった」28.0%、「(前職では)労働時間に不満があった」27.2%が続きました。

次に、【非正規雇用→正規雇用層】の転職理由についてみると、「(前職では)長期雇用の保障がなかった」39.5%が最多、「(現職が)長期雇用の保障があった」38.7%が続き、“長期雇用の保障”が上位2位項目となり、「(現職が)希望する仕事内容だった」36.3%、「(前職では)給料に不満があった」33.9%、「(現職が)希望する就業形態だった」32.3%が続きました。

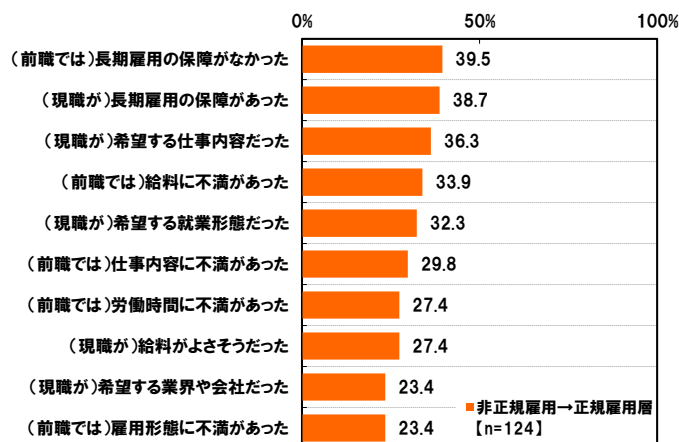
【グラフ 5-3】

◆【正規雇用→正規雇用層】の前職から現職への転職理由
(複数回答形式)
※上位10項目を表示



【グラフ 5-4】

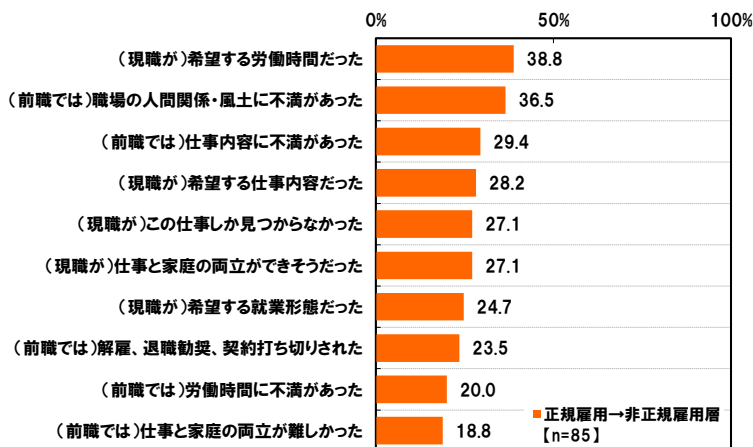
◆【非正規雇用→正規雇用層】の前職から現職への転職理由
(複数回答形式)
※上位10項目を表示



そして、非正規雇用へ転職した【正規雇用→非正規雇用層】と【非正規雇用→非正規雇用層】の転職理由についてみると、どちらの層も“労働時間”が最多で、次いで“職場の人間関係・風土”が上位2位項目となりました。それぞれについてみると、【正規雇用→非正規雇用層】では、「(現職が)希望する労働時間だった」38.8%、「(前職では)職場の人間関係・風土に不満があった」36.5%で、【非正規雇用→非正規雇用層】では、「(現職が)希望する労働時間だった」38.7%、「(前職では)職場の人間関係・風土に不満があった」33.2%でした。

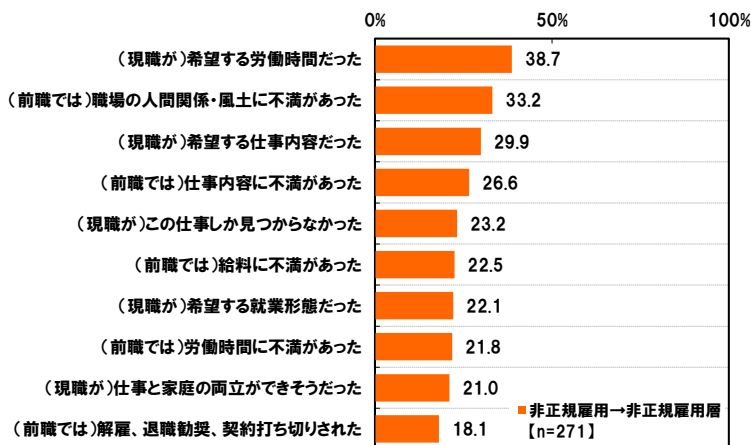
【グラフ 5-5】

◆【正規雇用→非正規雇用層】の前職から現職への転職理由
(複数回答形式)
※上位10項目を表示



【グラフ 5-6】

◆【非正規雇用→非正規雇用層】の前職から現職への転職理由
(複数回答形式)
※上位10項目を表示



<4> 転職の評価

◆前職と比較した現職の評価 「給料が改善」4割

◆転職理由となったものは、転職によって改善できたのか？

仕事内容が不満で転職した人の6割半ばが希望する仕事に

職場の人間関係が不満で転職した人の5割半ばが職場の人間関係に満足

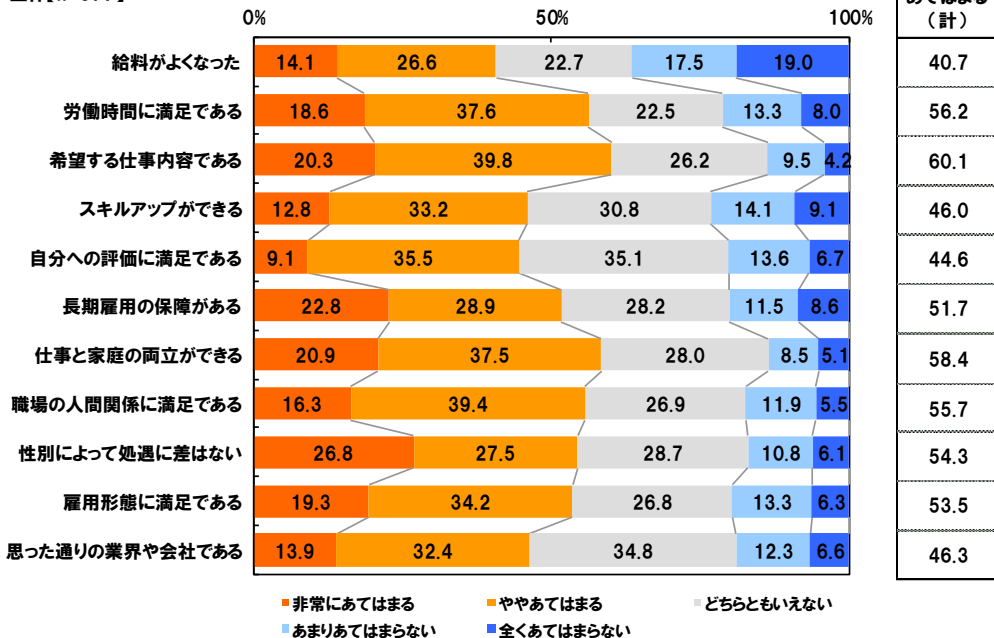
次に、現在転職活動中の23名を除く977名に、現職について前職と比較し評価してもらいました。

まず、転職理由の上位となった仕事内容、職場の人間関係、労働時間、給料について、前職と比較した現職の評価をみると、「希望する仕事内容である」は60.1%、「職場の人間関係に満足である」は55.7%、「労働時間に満足である」は56.2%と半数以上が『あてはまる』としましたが、「給料がよくなった」では40.7%にとどまりました。

前職と比較した現職の評価について、他の項目をみると、「仕事と家庭の両立ができる」58.4%、「性別によって処遇に差はない」54.3%などでは半数以上が『あてはまる』としましたが、「スキルアップができる」では46.0%、「自分への評価に満足である」は44.6%と半数に満たない結果となりました。仕事内容や職場の人間関係、労働時間など職場環境に関する項目に比べ、自分への評価や給料に関する項目では低くなりました。

【グラフ6-1】

◆前職と比較した現職の評価
(単一回答形式)
対象:現在転職活動中以外の人
全体[n=977]

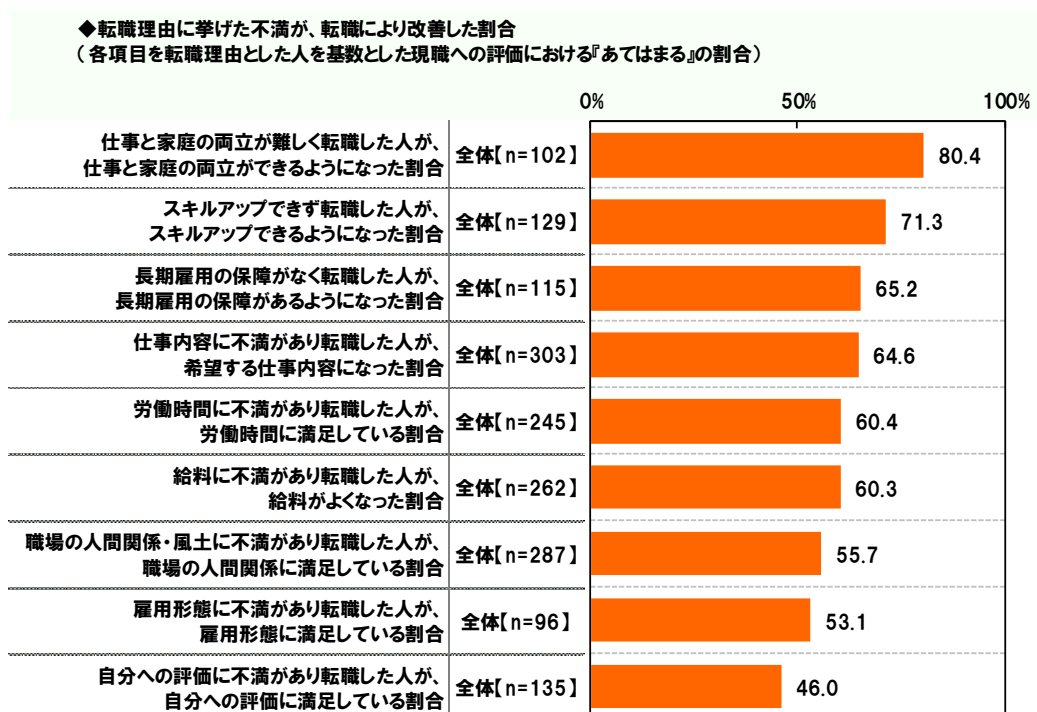


それでは、転職理由となったものは、転職によって改善できたのでしょうか。

現在転職活動中の23名を除く977名について、転職理由に挙げた不満やできなかったことが転職により改善したのかみていくと、最も改善した割合が高かったのは“仕事と家庭の両立”で、【仕事と家庭の両立が難しく転職した人】(102名)が、仕事と家庭の両立ができるようになった割合は80.4%となりました。次いで高かったのは“スキルアップ”で、【スキルアップができなく転職した人】(129名)が、スキルアップできるようになった割合は71.3%でした。

次に、全体の転職理由で上位だった項目についてみていくと、【仕事内容に不満があり転職した人】(303名)が、希望する仕事になった割合は64.6%、【職場の人間関係・風土に不満があり転職した人】(287名)が、職場の人間関係に満足している割合は55.7%となり、【労働時間に不満があり転職した人】(245名)が、労働時間に満足している割合は60.4%、【給料に不満があり転職した人】(262名)が、給料がよくなった割合は60.3%でした。

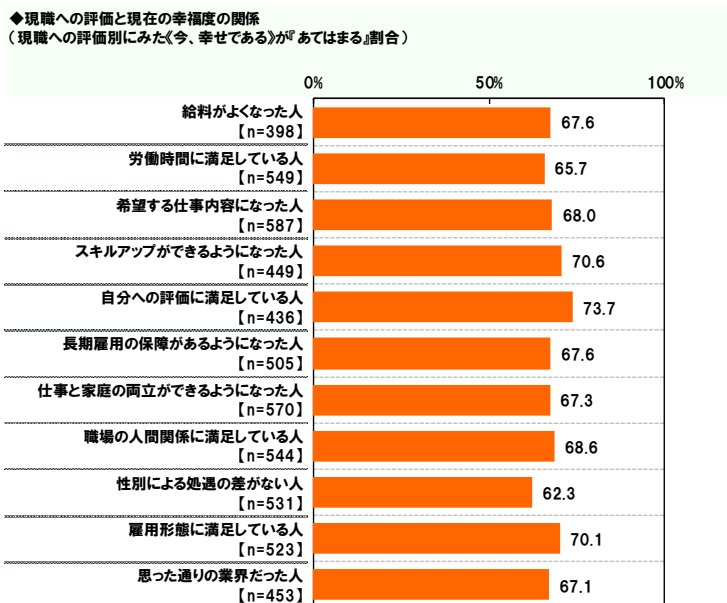
【グラフ 6-2】



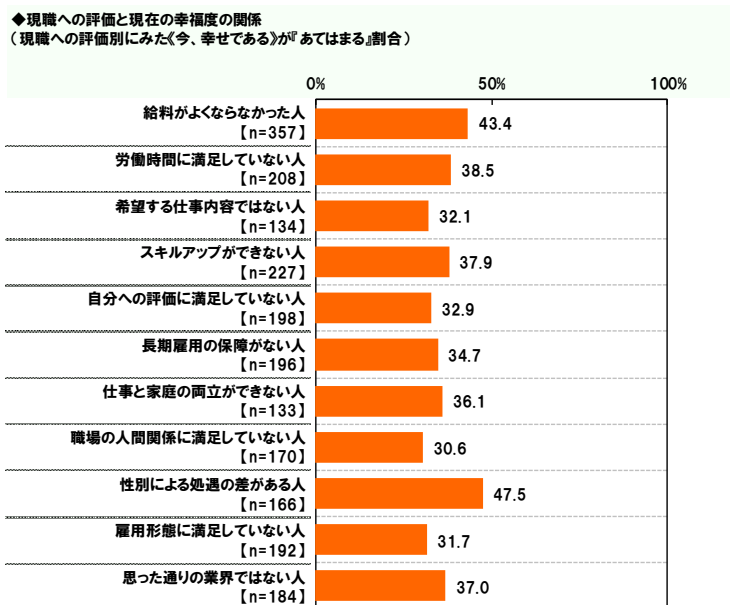
また、現職への評価と現在の幸福度の関係をみるために、現職への評価別に《今、幸せである》で『あてはまる』とした割合についてみると、現職への評価に満足している人のほうが、満足していない人よりも幸せであるとの割合は高くなり、最も高かったのは、【自分への評価に満足している人】(436名)で73.7%、次いで【スキルアップができるようになった人】(449名)70.6%、【雇用形態に満足している人】(523名)70.1%が続きました。

また、【給料がよくなった人】(398名)は67.6%、【希望する仕事内容になった人】(587名)は68.0%となっており、【自分への評価に満足している人】(73.7%)や【スキルアップができるようになった人】(70.6%)より低い割合となりました。給料がよくなった人や希望する仕事内容になった人よりも、自分への評価に満足している人や現職でスキルアップできるようになった人の方が幸せだと感じている人が多い様子が窺えました。

【グラフ 7-1】



【グラフ 7-2】



<5> 転職についての意識

◆ 転職についての意識 “転職での成功は容易” 7人に1人

“転職は人脈が広がる” 3人に2人、“転職でスキルアップができる” 3人に1人

◆ “転職は繰り返すと条件悪化” 半数が認識

◆ 転職したことを後悔した経験あり 4人に1人

◆ “一度非正規雇用で働くと、正規雇用にはなりにくい” 4割が同意

◆ 非正規雇用から正規雇用になるために役立つと思うもの

「同一組織内で正規雇用化が可能になる社内制度」が6割強でトップ

全回答者(1,000名)に、転職についての意識を聞きました。

まず、「転職に成功することは容易である」をみると、『あてはまる』は14.6%、『あてはまらない』は49.5%となり、容易だと感じているのは7人に1人で、約半数は転職に成功することは難しいと認識している結果となりました。

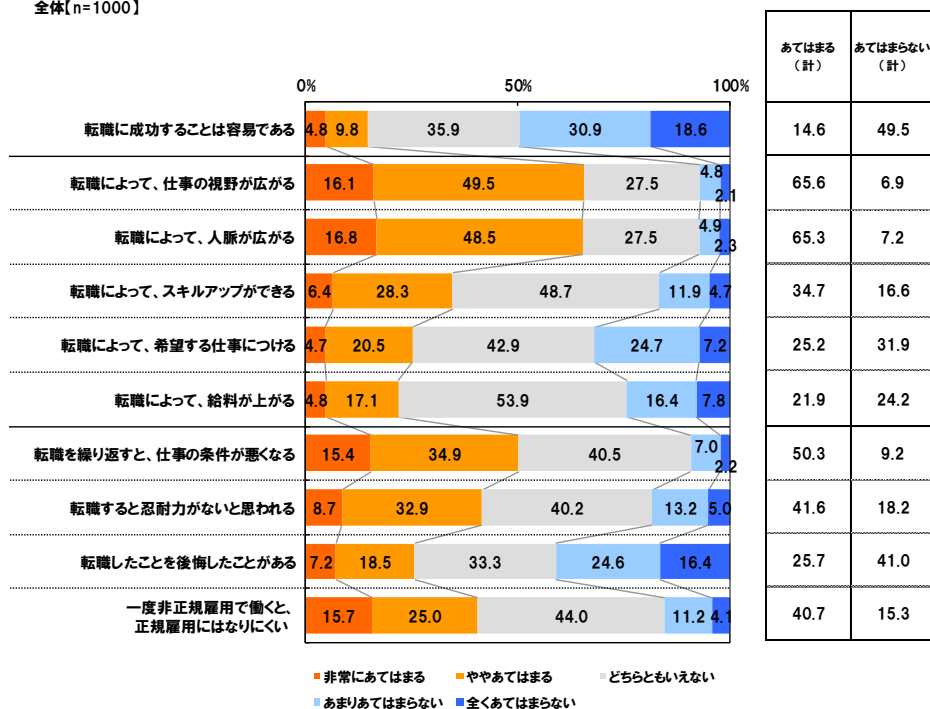
次に、転職についてのプラス面についてみていくと、『あてはまる』割合は、「転職によって、仕事の視野が広がる」では65.6%、「転職によって、人脈が広がる」では65.3%が同意を示しましたが、「転職によって、スキルアップができる」では34.7%、「転職によって、希望する仕事につける」では25.2%となり、さらに「転職によって、給料が上がる」では21.9%にとどまりました。

転職についてのマイナス面についてみていくと、「転職を繰り返すと、仕事の条件が悪くなる」では『あてはまる』が50.3%と半数、「転職すると忍耐力がないと思われる」では41.6%が同意を示す結果となりました。そして、「転職をしたことを後悔したことがある」では25.7%で、4人に1人が転職を後悔した経験があるという結果となりました。

また、「一度非正規雇用で働くと、正規雇用にはなりにくい」の『あてはまる』割合をみると、全体では40.7%となり、4割が非正規雇用で働いた後に正規雇用で働くことの難しさを感じているという結果となりました。

【グラフ8】

◆ 転職についての意識
(単一回答形式)
全体[n=1000]

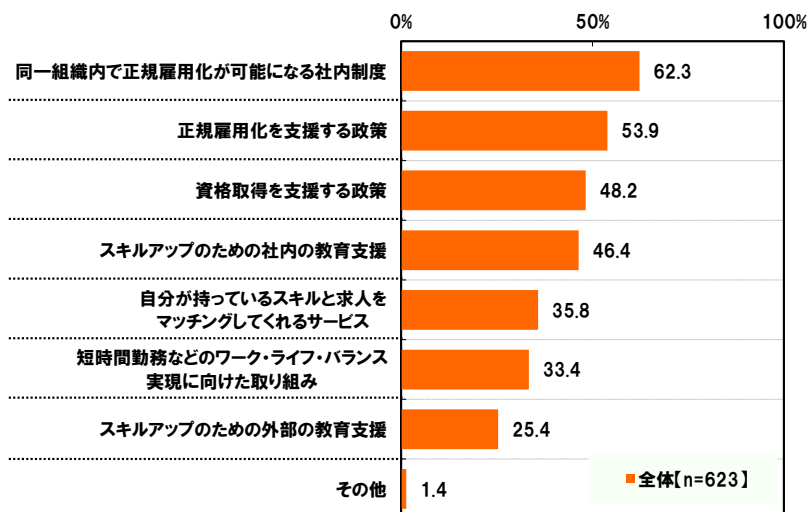


また、これまで非正規雇用で働いたことがある623名に、非正規雇用から正規雇用になるために、あったら役に立つと思うものを聞いたところ、「同一組織内で正規雇用化が可能になる社内制度」62.3%が最多で、次いで「正規雇用化を支援する政策」53.9%、「資格取得を支援する政策」48.2%、「スキルアップのための社内の教育支援」46.4%、「自分が持っているスキルと求人マッチングしてくれるサービス」35.8%が続きました。

【グラフ9】

◆非正規雇用から正規雇用になるために、あったら役に立つと思うもの
(複数回答形式)

対象: これまでに非正規雇用で働いたことがある人



◆調査概要◆

- ◆調査タイトル：転職に関する調査
- ◆調査対象：ネットエイジアリサーチのモバイルモニター会員を母集団とする
20歳～59歳の転職経験のある有職者、または転職活動者
- ◆調査期間：2012年8月10日～2012年8月21日
- ◆調査方法：インターネット調査
- ◆調査地域：全国
- ◆有効回答数：1,000サンプル（有効回答から1,000サンプルを抽出）
- ◆実施機関：ネットエイジア株式会社（担当：吉田）

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、「連合調べ」と付記のうえご使用くださいますよう、お願い申し上げます。

■■本調査に関するお問合せ窓口■■

連合（日本労働組合総連合会） 非正規労働センター 担当：松野、村上
総合企画局 担当：扇谷、加藤、菊地

TEL : 03-5295-0555（非正規労働センター）
: 03-5295-0510（総合企画局）

Eメール : hiseiki@sv.rengo-net.or.jp（非正規労働センター）
: jtuc-kikaku@sv.rengo-net.or.jp（総合企画局）

受付時間 : 10時00分～17時30分（月～金）

■■連合（日本労働組合総連合会）概要■■

組織名 : 連合（日本労働組合総連合会）
代表者名 : 会長 古賀 伸明
発足 : 1989年11月
所在地 : 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11 総評会館内 3F-8F
業務内容 : すべての働く人たちのために、希望と安心の社会をつくる